

小樽港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども小樽港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、小樽港や石狩湾新港など管内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

4 質の高い教育をみんなに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

クルーズ振興による地域活性化に貢献

小樽運河等の多数の人気観光施設のほか、中心市街地商業地区やJR小樽駅に近く、利便性の高い立地環境に位置している小樽港第3号ふ頭において、既存係留施設の改良に合わせ、グルーズ船の係留も可能とする岸壁改良事業を行っています。また、背後圏に世界有数の観光地であるニセコを有する岩内港においてもクルーズ船の寄港による交流人口の増加が期待されており、周辺地域の経済に大きく貢献しています。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

12 つくば責任 消費責任

13 気候変動に具体的な対策を

17 パートナリシップで目標を達成しよう

エネルギー拠点港としての使命

石狩湾新港では水深14m航路の整備により、北海道唯一の外航大型LNG船の受入基地となる石狩LNG基地の運転が開始され、北海道内で消費される天然ガスの殆どがここから出荷されています。また、港湾区域内で令和5年度稼働予定の洋上風力発電工事が着手されており、西地区水深14m岸壁など洋上風力発電の拠点としても非常に重要な役割を担っています。これからも港湾管理者等と連携し、エネルギー拠点港としての機能向上を推進して参ります。



4 質の高い教育をみんなに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

先人から受け継いだ港湾の技術力を後生へ

小樽港北防波堤は建設から120年以上経過した今なお、倒壊することなく建設当時の状態をほぼ維持し続けております。小樽港湾事務所内にある「みなとの資料コーナー」では、このような歴史的な価値が非常に高い資料を一般に公開し、港湾に関する理解を深め親しみを抱いてもらえるよう取組んでいます。また、近隣の小中学校を対象とした「みなと見学会」や「出前講座」を通じ、後生へ港湾の技術力伝承に今後とも取り組んでいきます。



【目標】2022年度:20回/年 → 2023年度:20回/年 ※みなと見学会+出前講座